

「楽しい」を大切に…

文化財をまちづくりへ

活かしていきたい



信州大学大学院
総合医理工学研究科博士課程 3年
長野市観光文化部文化財課 主事(学芸員)

小野田 朱音

Akane Onoda



現在の仕事

長野市職員として行う指定・登録文化財の候補物件の調査では、大学の研究室で培った知識を活かすことができ、場合によっては自身の研究と結びつくこともあり、大きなやりがいを感じています。また、重要伝統的建造物群保存地区における修理・修景事業や、地元住民の方々との協議を通じて、自分の仕事がまちづくりの一端を担っていることを実感しています。

大学院の研究では、明治期に松本を中心に活躍した大工棟梁・立石清重の活動を分析し、大工の近代化を読み解いています。彼が手掛けた旧開智学校校舎は国宝に指定されていますが、国宝を手掛けた大工であるにもかかわらず、その活動には未解明の部分が多く、研究を進める中で、謎が解けていく感覚がとても楽しいです。

今後の展望

私は学芸員枠で採用されていますが、長野市職員には建築を専門とする学芸員の先例がなく、今後の異動先は全く予想できない状況です。その一方で、文化財をまちづくりにどう活かしていくかを広い視野で考えられるようになりたいと思っており、学芸員という肩書きにとらわれず、まちづくりに関わるさまざまな部署で経験を積みたいと考えています。また、業務を進めるうえで必要な知識や自分に不足している点を補うため、一級建築士などの資格取得にも挑戦したいと考えています。

今の自分があるのは

社会人学生として、最もありがたく感じているのは制度面で、特に長期履修制度が大変役立っています。私は大学院の在学期間を倍の6年まで延ばしたため、焦らず研究を進めることができている。また、土曜開講の授業があることも非常に助かっています。基本的に、授業と業務の時間が重なってしまうため、土曜開講がなければ博士課程は諦めていたかもしれません。今後あったらよいと感じているのは支援や制度そのものではなく、書類提出の窓口についてです。現在は受付時間が業務時間と重なっており提出に手間取ることが多いため、土日でも提出できるポスト等があると大変助かります。



研究対象の立石清重氏が手がけた
旧開智学校

Message

後進の女性研究者や大学生、高校生のみなさんへ

自分が本当にやりたいこと、好きだと思えることをぜひ見つけてください。何かに取り組むとき、それが別の何かの役に立つかどうかは大切な指標ですが、私はそれ以上に、自分が「楽しい」と感じられるかを大事にしています。自分が楽しいと思えば、それは決して無駄ではないと思っています。夢中になれる何かを見つけることは、きっとあなたの人生を豊かにしてくれるはずですよ。



長野市にある善光寺の本堂も
国宝に指定されています